

〔第2部〕 職業継続と育児の問題

I 家族の協力

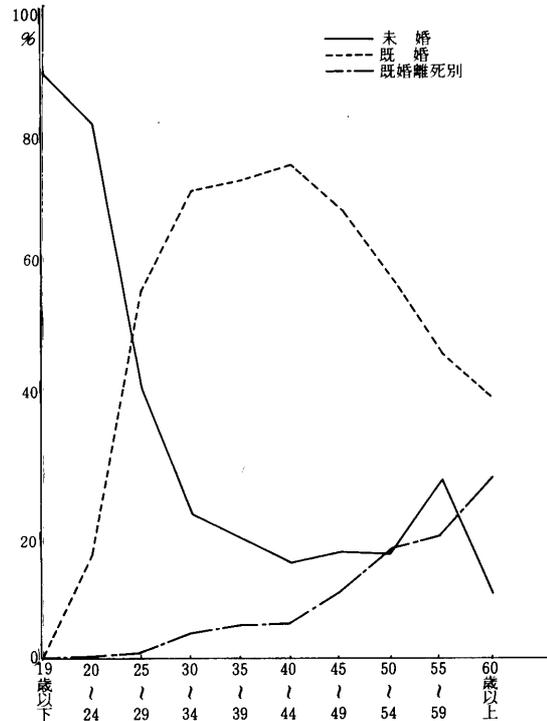
仕事をしている女性にとって、様々な面で家族の協力が必要なというまでもない。家族の協力の有無は、女性の職業継続にとって1つの要でさえある。ここでは会員が家族からどの程度協力を受けているかを明らかにしようとした。そこでまず会員の家族構成について先にふれておく。

1 家族構成

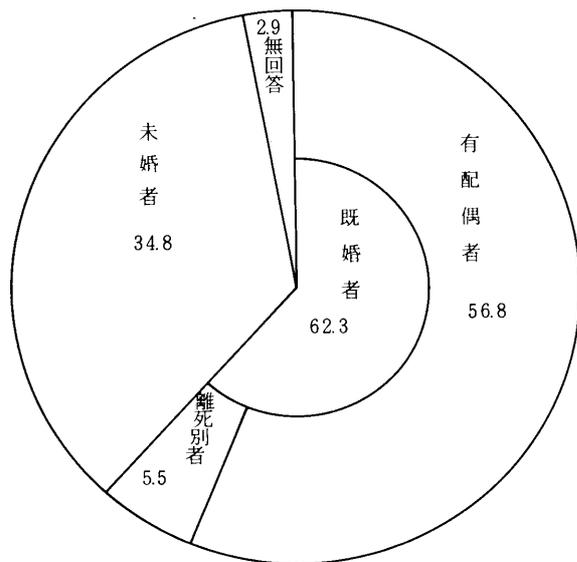
1) 配偶関係

会員のうち未婚者は34.8%、既婚者は62.3%である。5.5%は配偶者と離死別している〔図I-1〕。4年前と比較すると約10%既婚者が増えた。一般女子労働者（平均年齢36.3才）の既婚率47.4%（労働省婦人少年局『女子保護の概況』昭和51年）と比較すると、会員の既婚率は高い。

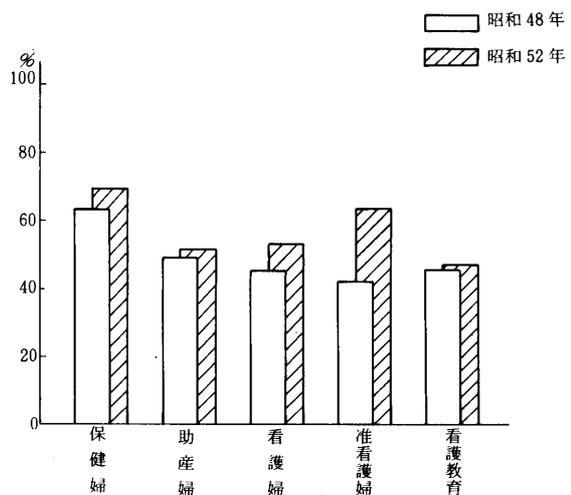
これを年齢別にみると24歳以下では、既婚率が16.8%と低いが、「25-29歳」になると未婚者と既婚者の割合が近づき、「30-35歳」以上では既



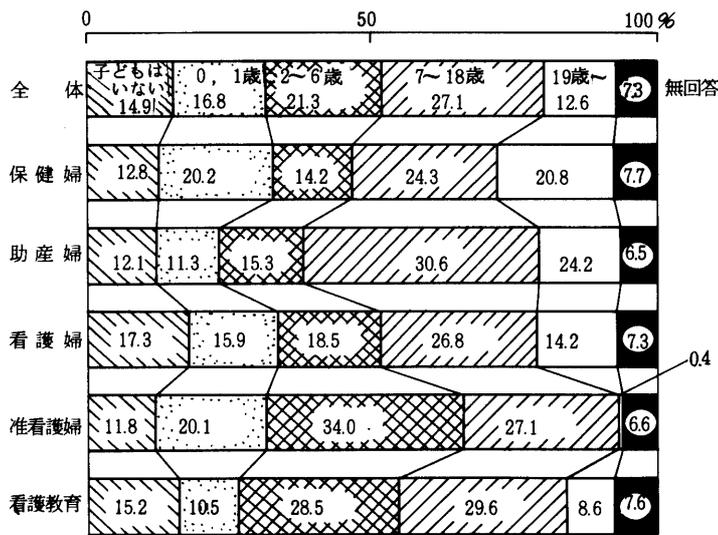
〔図I-2〕 年齢別配偶関係



〔図I-1〕 会員の配偶関係 (単位%)



〔図I-3〕 業務別既婚率



〔図 I - 4〕 業務別末子の年齢

婚者の割合が7割以上と多くなる。しかし45歳を越えると既婚離死別者が増えてくる〔図 I - 2〕。

業務別では、保健婦と准看護婦とに既婚者が多く、看護教育者に未婚者が多い。ことに准看護婦はこの4年間に約25%既婚率が上昇している〔図 I - 3〕。

2) 子ども

会員全体の52.7%には子どもがいる。これは既婚者の77.9%に相当する。末子の年齢を尋ねたところ、既婚者の16.8%は0歳・1歳の乳児を持ち、38.1%は0～6歳までの乳幼児を持つ。この比率は会員全体にしても23.6%に達し、これだけの者がまさに子育ての時期にあると言ってよい。

業務別では、既婚准看護婦の半数以上が乳幼児を持つ。これは准看護婦全体でも36.7%に相当し、4年前乳幼児を持つ准看護婦の割合28.4%と比較するなら、8.3%の増加になる。前述の既婚率の増加をそのまま反映していると言えるだろう。一方、保健婦と助産婦とは、やはり年齢層が高いせい、成人子女を持つ者が多い〔図 I - 4〕。

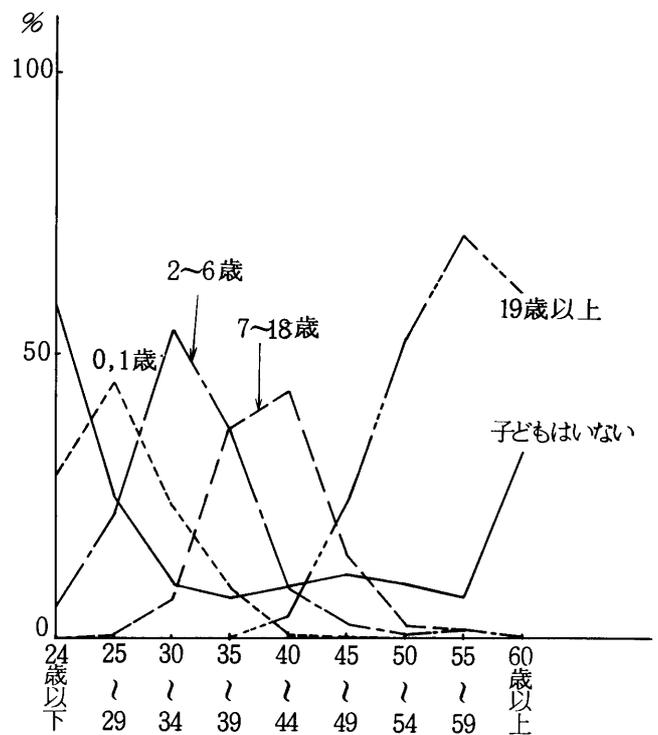
年齢別では、30歳をすぎるとほぼ既婚者の9割以上が子どもを持っている。また、0歳・1歳の

乳児を持つ会員の59.3%は「25～29歳」代に集中していた〔図 I - 5〕。

勤務場所別にみると0～6歳児を持つ会員は「病産院」と「保健所」に多く、それぞれ40.9%、38.7%を占め、殊に「保健所」では0歳・1歳児を持つ者が22.1%と高かった。

以上のことから、乳幼児を持つ会員は大まかに25～34歳の既婚者で、業務別というと准看護

婦、看護教育業務にたずさわり、勤務場所では「病産院」や、「保健所」勤務者に多いといえる。なかでも0歳・1歳児を持つのは業務別では保健婦、准看護婦で、年齢でいうと「25～29歳」、勤務場所では「保健所」勤務者といえそうだ。



〔図 I - 5〕 会員の年齢別末子の年齢

2 家事の分担

家族の具体的な協力を知る1つのものさしとして、ここでは家事分担の度合いについてたずねてみた。

まず全体では、半分以上の者が、「家事はすべて私がやっている」。「家事は主に私がするが、ほかにも手伝ってくれる人がいる」を合わせると、72.1%がほぼ家事の主担当者であった〔図I-6〕。

また、末子の年齢別では0～6歳児を持つ会員は、他と比べて自分で行なう割合が少し低く、部分的に行なっている者が多い。育児のため、家事は他の者が多く分担しているわけだ。そしてこれは、子どもを育てながら仕事をしていく場合には、ふだん以上に家族の具体的な協力を要することを示している。〔図I-7〕。

夜勤体制別で見ると、交替制勤務者の半数前後が家事の主担当者であり、夜勤のない者と変わりはない。ここからは夜勤の有無にかかわらず、家事をこなしている、多くの会員の姿が浮き彫りにされた。

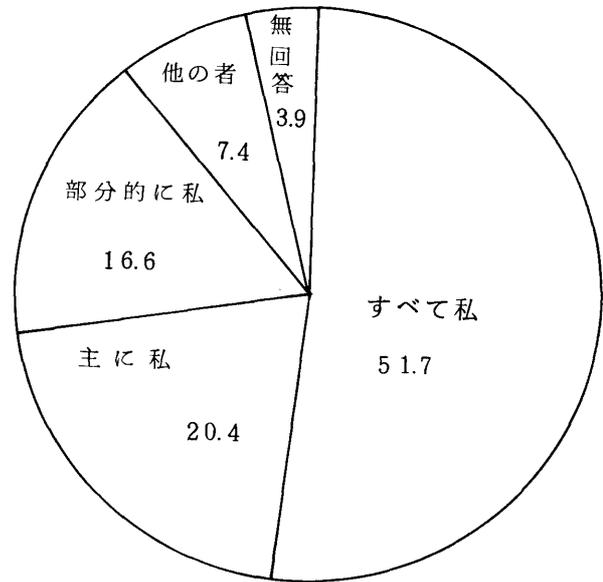
なお、自分が主担当者でない場合の、家事担当者は、「自分の親」が41.8%、「配偶者の親」が36.8%、「配偶者」が6.4%である。

3 仕事をする上での協力

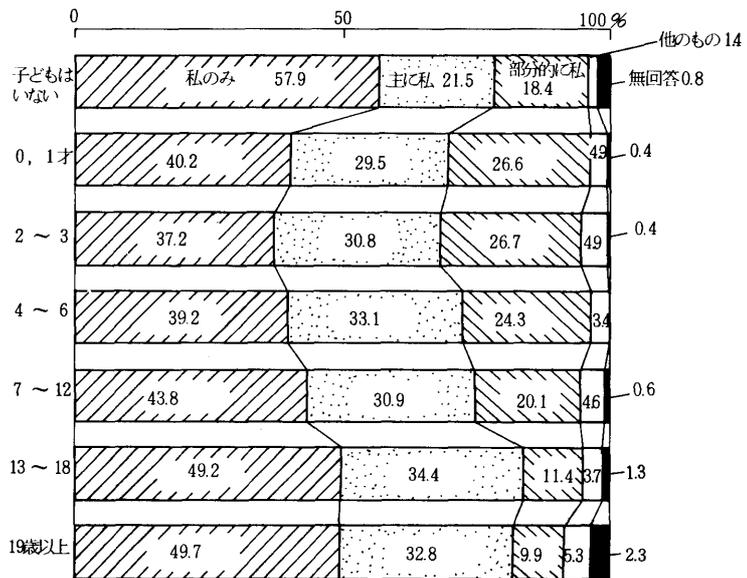
前項では具体的な家事分担度をたずねたが、次いで、本人が仕事をする上での、精神的ないたわりや支えも含めた家族の協力意識についてきいた。全体では、7～8割の者が家族の協力があると答えている。ことに既婚者は91.1%の者が協力ありと答えた。

これを前項の家事分担度とのかね合いで見ると、〔図I-8〕のように、自分で分担する割合が少

なくなり、家族の分担率が増えるにつれ、「大変



〔図I-6〕 家事の分担



〔図I-7〕 末子の年齢別家事の分担

なり、家族の分担率が増えるにつれ、「大変

協力的である」というものがやや多い。特に「自分は部分的にしている」と「他の者がしている」者では、実に95%以上が協力的という評価を下している。やはり家事分担など、かなり具体的な家族の行動に、会員はより協力の姿勢をみとっているようだ。